

## ISASのロードマップについての意見

桜井 隆

現状では、予算措置されて実行中の衛星と、次に概算要求したい新規プロジェクト（SPICA）の他は、30ほどのワーキンググループが並立し、ロードマップとなっていない。ここには、「一定規模の資金が確保」されたことの負の面が出ている。安定した予算の確保は、宇宙科学・探査の運営面・技術面では重要であり、打ち上げ回数が確保できないと、ただでさえ割高な我が国の科学衛星は立ち行かない。一方科学面においては、5年に一機の衛星を確保しないと大学院生の教育に支障がある、というX線天文分野の主張も以前はあったが、衛星が大型化・複雑化した現在には当てはまらない。

- ・「一定規模の資金」を衛星プロジェクトの間で分ける（他の科学分野との競争がない）
- ・従って、概算要求の前年にひとつプロジェクトを選べば良い
- ・資金が一定であるので、衛星にかける予算も一定

という状況は打開すべきであり、ロードマップの策定はその第一歩である。大型衛星を補助金で実施する検討がされていることは評価したい。また、ISAS単体で予算を毎年一定額確保することに固執せず、JAXAの予算全体の中での融通も効かせてほしい。

従ってロードマップの策定に当たっては、以下の観点を取り込んでいただきたい。

- ・5月29日の資料1-1にある「目標」はむしろ「目的」で、目標には「いつまでに何を」が書かれてなければならない。また、自然科学・工学の全体の中での位置づけを示す必要がある。
- ・衛星プロジェクトは、「一定規模の資金」により行うものと、大規模予算を新たに確保して行う大規模プロジェクトとをはっきり分ける必要がある。
- ・例えば「宇宙の誕生に迫る」というような研究課題は多くの人々の興味を引くが、それをX線で行うか、赤外線で行うか、などは国民の関心の中心ではない。研究課題の書き方も大きな視点で見直す必要がある。

これらの検討には時間がかかると思われるが、早くできることには取り組んでほしい。例えば、ワーキンググループに優劣はつけていないといっても、開発経費の配分などで実質上評価はある程度されているのではないか。であれば、それに基づく優先順位を反映したようなロードマップに改訂することはすぐ可能であろう。